

埋文にいがた

MAIBUN

新潟県埋蔵文化財センター

MAIBUN
NIIGATA

2025 Jul

第127号

発掘調査
整理遺跡
紹介

上越市 古屋敷割遺跡

企画展 1 「金箔付木製塔婆と渡来銭—中世柏崎の生活と信仰—」 紹介、県内の遺跡・遺物



展示解説・
講演会の会場参加特典



2025年度 本発掘調査遺跡・ 整理遺跡の紹介

本発掘調査は村上市上野遺跡、新潟市秋葉区沖ノ羽遺跡、柏崎市丘江遺跡、南魚沼市六日町藤塚遺跡・金屋遺跡、上越市三和区古屋敷割遺跡・弥五郎遺跡の7遺跡、整理作業は上野遺跡、六日町藤塚遺跡の2遺跡を実施しています。

かみの
上野遺跡 (村上市猿沢・檜原)



縄文時代後期前葉の拠点集落の遺跡です。多くの遺構を検出し、大量の遺物が出土した層よりも下の層を中心に調査しています。

おきの は
沖ノ羽遺跡 (新潟市秋葉区七日町)



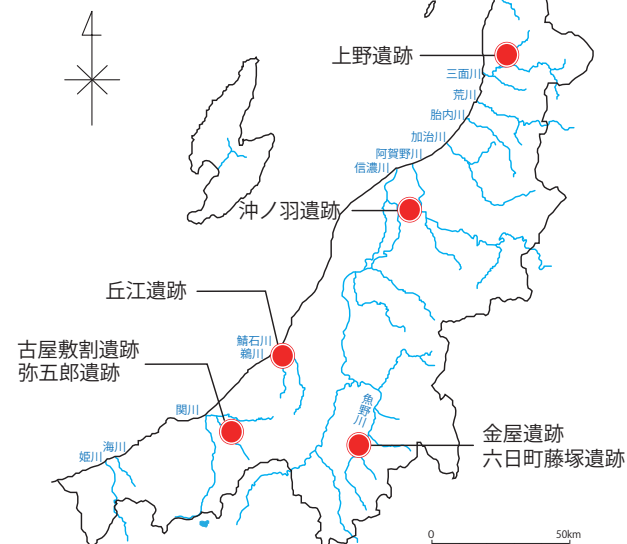
平成の調査では古墳時代の土坑、平安時代の掘立柱建物・井戸・土坑・溝、鎌倉時代の井戸・溝が見つっています。今回はその隣の地点を調査します。

ふるやしきわり
古屋敷割遺跡 (上越市三和区米子・上広田)



平安時代(9～11世紀)・室町時代(15世紀)の遺跡です。写真は北東～南西に長い調査区で、遺構検出を行っている様子です。

遺跡位置図



おか え
丘江遺跡 (柏崎市田塚)



鎌倉～室町時代(13～15世紀)を中心とした中世の集落遺跡です。当時の建物の柱穴、井戸、区画溝などの遺構、遺物が多く検出されることを期待して調査を進めています。

かみの
上野遺跡 (村上市猿沢・檜原)



縄文時代後期前葉(約4,000年前)の大規模集落を横断する自然流路から出土した土器の接合作業をしています。器形が分かる土器が多くあります。



2025年度
発掘調査
遺跡の紹介

古屋敷割遺跡

— 平安時代～中世の集落 —

所在地：上越市三和区米子・上広田

ふるやしきわりいせき
古屋敷割遺跡は高田平野東部、飯田川右岸の中流域に所在します。国道253号上越三和道路の建設に伴い、2019年度に道路本線部分、2020年度に農道部分の発掘調査を実施しています。

今年度は3度目の発掘調査で、水路工事に伴い4つの調査区を調査予定です。現在までに調査区2の農道部分を除く東側、調査区4の調査を終えています。

調査区2の西端では遺構が集中する箇所が確認できました。この遺構集中箇所では、掘立柱建物、井戸、土坑、溝、柱穴などが見つかりました。掘立柱建物や井戸が複数確認できることから集落が営まれていたことが分かります。

一方、遺構集中箇所の周辺では、溝が数条確認できるのみで、生活痕跡が希薄です。これは地形の高低による土地利用の差を示していると考えら

れます。

遺跡の標高は14m前後で、南東から北西へ緩やかに傾斜する地形ですが、遺構集中箇所は周辺より、標高が高い微高地に立地しています。この微高地上に集落が展開し、低地部分は水路として利用された溝が確認できるのみであることから、水田などの生産域として利用されていたと考えられます。調査区4では、溝を1条確認しました。

遺物は少ないですが、平安時代の遺物を中心に土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器が出土しています。そのため、遺構の時期も平安時代が主体と考えられます。しかし、過去の調査では井戸から珠洲焼などが出土していることから中世の遺構も存在すると考えられます。

今後、遺構・遺物をより詳細に検討し、遺跡の様相を明らかにしていきます。（高尾将矢）



上越三和道路と調査区2の遠景（南西から）



調査区2西端の遺構集中箇所（上空から）



土坑から出土した平安時代の土器（南から）



柱穴から出土した平安時代の土師器碗（南から）



埋文 インフォ メーション

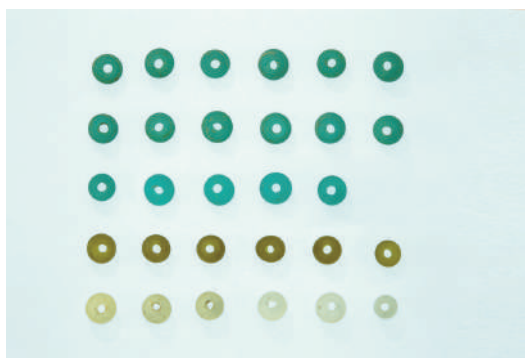
2025年度企画展 1

「金箔付木製塔婆と渡来銭—中世柏崎の生活と信仰—」

4月19日（土）～11月24日（月・振）（期間中無休）

企画展1は、柏崎市教育委員会と共催で11月24日まで開催中です。柏崎市内で数多く発見された中世遺跡の中から、生活と信仰に関するものを写真と遺物で紹介しています。

まず信仰に関するもので注目されるのは、丘江遺跡から出土した「金箔が押された木製塔婆」です。全国で2例目となる大変希少なものです。現在は実物大写真パネルを展示中ですが、気温が25度以下になる11月14日～24日に実物を展示予定です。今は丘江遺跡の陶磁器や木製品を中心に展示中です。数珠玉と考えられる緑～青～黄色のグラデーションが美しいガラス玉は見ていてうっとりします。直径4mmと大変小さく、繊細な作りになっています。また、木製の踏み鋤は全国でも類例が少ないようで、研究者大注目の逸品です。



丘江遺跡出土ガラス玉

東原町遺跡の珠洲焼壺に入っていた一万枚以上の中国を中心とする渡来銭も圧巻です。ものすごく重たいです。1緡約97枚で約400g。25本積み上げました。また、祭祀に使ったとみられる鋳形木製品があります。刃先を墨で表現しています。地鎮祭などに使用したのでしょうか。

宝田遺跡ではおにぎり状炭化米を展示しています。水田がたくさん見つかった遺跡を象徴する遺物です。こびる（小昼）中に手が滑って田んぼに落としたのでしょうか。現代の三角や丸のおにぎり比べるとかなり歪んでいますが、今の米不足・高値を考えると食べてみたい気がします。

柏崎町遺跡・下沖北遺跡・丘江遺跡で出土した

計4点の土製・石製の天神様？も担当者一押しです。現在の柏崎市は天神祭りが大変盛んです。学問の神様・菅原道真（天神様）公にあやかりたいものです。テストの近い学生生徒諸君必見です。

柏崎町遺跡で埋納されていた白磁・青磁の椀・皿12点をお借りしています。さすが古くからの港町を代表するものです。高台内に四角に三と墨で書かれています。意味するところは…。



柏崎町遺跡一括出土陶磁器
（柏崎市教育委員会）

素焼きの皿（かわらけ）を多数展示しています。刈羽・三島型と言われる地域色の強いものです。宴会用の使い捨ての器ですが、越後毛利氏が鎌倉から持ち込んだか？などと想定されることも。

9月7日（日）、11月9日（日）に企画展関連の講演会を開催。会場は申込不要。オンラインは要申込。詳しくはセンターHPでご確認ください。





埋文 コラム

ごりんとう 五輪塔

日本人の信仰を示すものの一つとして、五輪塔または五輪卒塔婆と呼ばれるものがあります。墓の一種で、現代でも先祖の供養や個人の墓、また記念碑など幅広い用途で建立されています。

仏教の発祥である古代インドでは、宇宙を構成する5つの要素（元素）を「地・水・火・風・空」と捉えました。その象徴を、下から方形（地輪）、円形（水輪）、三角形（火輪）、半月形（風輪）、宝珠形（空輪）の五つの形で表し、積み上げたのが五輪塔です。第1図のような立体的な造形は、日本で生まれた可能性があります。

その種類は、①材質（木製・石製・水晶製など）、②形状（立体的・平面的）、③構造（個別的、一体的）など多様です。平安時代末期から鎌倉時代初期の絵巻物である『餓鬼草子』には、当時の墓地風景が描かれています。ここには木製塔婆と石造物が確認でき、多様な墓の形態があったことがわかります。また一方では、埋葬されない遺体も描かれ、経済力の差も感じられます。

第2図は柏崎市剣野沢遺跡から出土した長さ7.4cmの五輪塔形の木製品です。板状ですが、塔婆の一部ではなく、単独の木製品と考えられます。小型ですが丁寧な造りで、各輪に梵字が一字

ずつ上から「キャ・カ・ラ・バ・ア」と墨書されています。石造物や（角）塔婆で4方向（4面）にそれぞれ別の梵字が記される場合は、この字体が基本となり、正面（東面）に配置されます。

梵字の一文字で仏や菩薩を表す時は、種子（種子）とも呼ばれます。妙高市旧得法寺跡（室町時代主体）の調査では、水輪に一字を刻む例が多く、出土した62点中29点に種子が認められました。その内訳は、大日如来を表す「バン」が26点、阿弥陀如来を表す「キリーク」が3点です。

戦乱などの社会不安の多かった平安時代後期には、末法思想（釈迦の死後、教えが衰え、人々が悟りを開くことが難しくなる時代を迎える）が流行しました。そのような社会背景の中で、浄土教などの新しい仏教宗派が、鎌倉時代にかけて興りました。鎌倉・室町時代の中世は、それら新興宗教の布教が加わり、武士や一般庶民層まで思想や概念が広まりました。仏教が大衆化、また信仰が多様化した時期とも言えます。（石川智紀）

【参考文献】土生田純之編『事典 墓の考古学』吉川弘文館2013、新潟県立歴史博物館編『中世人の生活と信仰 展示図録』2006



第1図 五輪塔（石造物）模式図



第2図 五輪塔形木製品（写真・赤外線写真）



県内の
遺跡・遺物
122

2025年3月21日 新潟県指定有形文化財〔考古資料〕

鍋屋町遺跡出土品 523点

遺跡所在地：上越市柿崎区柿崎

遺物保管：上越市（上越市埋蔵文化財センター）、柏崎市（柏崎市立博物館）

鍋屋町遺跡は、高田平野の北東部に発達した潟町砂丘上の海岸線から約300m内陸に入った標高48mの緩斜面上に立地しています。今から約5,600年前の縄文時代前期後半の遺跡です。

戦時下の1943（昭和18）年に発見され、1958（昭和33）年に開発工事で壊されてしまう事を知った地元の考古学研究者が中心となり、有識者を含めた柏崎市文化財調査委員会が発足され1次調査を実施しました。翌1959（昭和34）年には、旧柿崎町教育委員会により2次調査が実施され、大量の出土資料は当時の学会の注目を集めました。

県指定文化財となった鍋屋町遺跡出土品は523点あります。土器・土製品は483点あり、年代をはかる指標となった「鍋屋町式土器」は、口縁部に鋸歯状印刻文、頸部に結節浮線や半隆起線による渦巻文や三角状文を施す文様が特徴的です。

これら在地の土器群と、関東・中部系土器、北陸系土器、信濃系土器、畿内系土器、南東北系なども出土したことから、周辺地域との交流の様子を窺うことができます。また、多孔底土器も出土しており、焼成後に底面や底部側面に複数の穿孔を加える特殊な土器もあります。

石器・石製品は40点あり、狩猟・漁労具（石鏃・石錘）、採集・加工具（石匙・磨製石斧等）、装身具（玦状耳飾り）があります。そのうち、出土点数が少なく評価が難しいですが、石鏃が占める割合が比較的多い点は北陸地方東部の様相と一致します。その石材には、上越市で採取される安山岩のほか、長野県産と推測される黒曜石が含まれています。また、磨製石斧は、糸魚川市周辺を原産とする蛇紋岩類を素材として、擦切り技法で製作されていることが確認できます。

この遺跡は、開発工事により新潟県の縄文時代前期の様相を探る貴重な資料が失われてしまうことを憂いた地元研究者の熱意が発端であり、本県の文化財保護史上において重要な出土品です。また、当時の調査方法や体制、行政手続き等に関する記録も残されており、行政主体の発掘調査が定着する以前の状況も把握することができます。

このことから、鍋屋町遺跡出土品は新潟県上越地方における縄文時代前期後半の特徴を示す優れた基準資料であり、また、高い学術的価値を有するものとして県の有形文化財に指定されました。

（荒木青花）



鍋屋町遺跡出土品 所蔵：上越市教育委員会・個人（柏崎市立博物館寄託） 写真：柏崎市教育委員会提供



埋文にいがた 第127号

2025年7月25日発行

発行 新潟県埋蔵文化財センター Niigata Prefecture Archaeological Research Center

指定管理者：公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1 TEL：(0250)25-3981 FAX：(0250)25-3986

E-mail：niigata@maibun.net URL：https://www.maibun.net/



『埋文にいがた』のバックナンバーは（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団 HP でご覧いただけます。
上の URL からご確認ください。